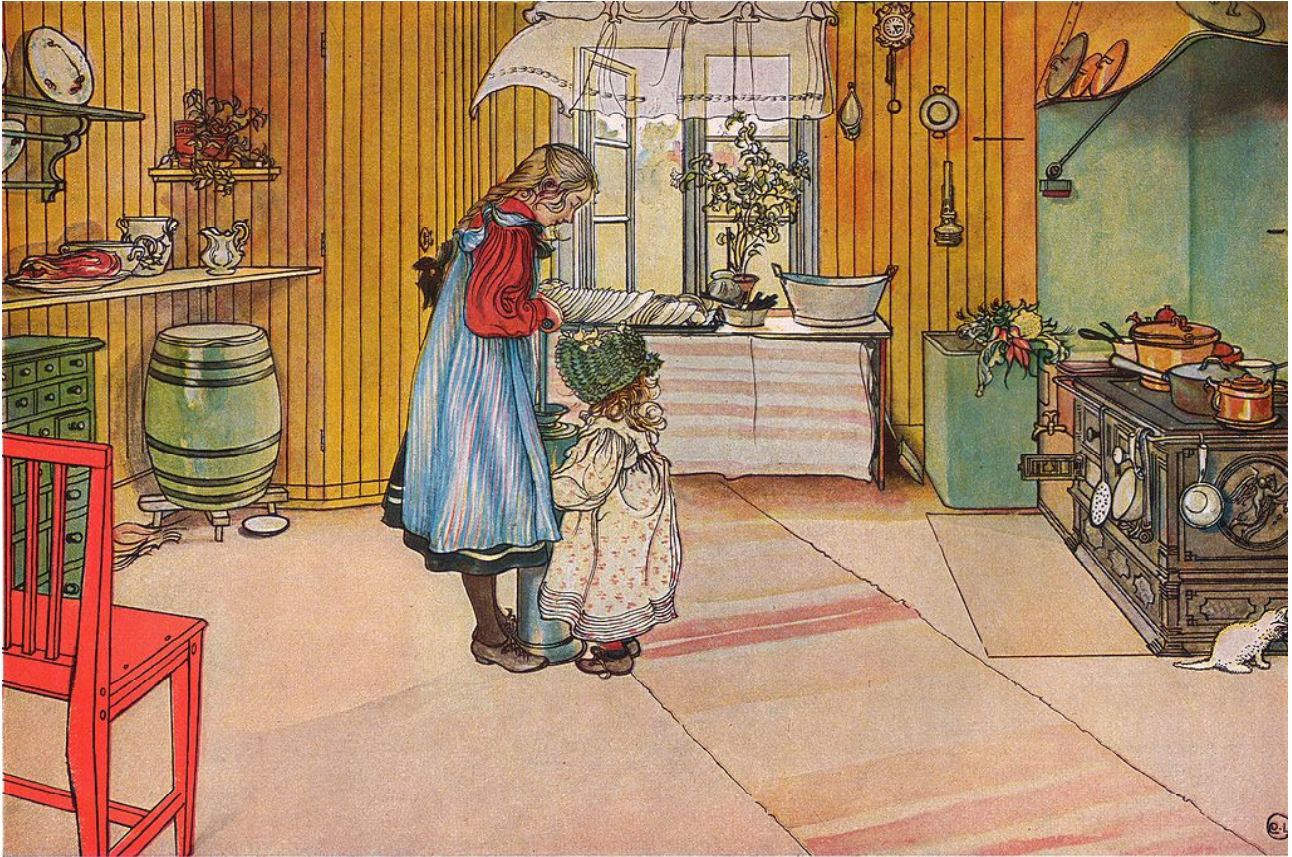


「カール・ラーション、その絵画と俳句」-II



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:K%C3%B6ket_av_Carl_Larsson_1898.jpg

『キッチン』 | 1898年 | 水彩、32 × 43 cm | スウェーデン国立美術館

カール・ラーションの2回目です。

彼の絵画の魅力は、鮮やかな色彩と巧みな線描表現にあります。

その源のひとつは、19世紀の美術に決定的な影響を与えた曲線の芸術、アール・ヌーヴォーにあります。

ラーションの描法には、もうひとつの源があります。

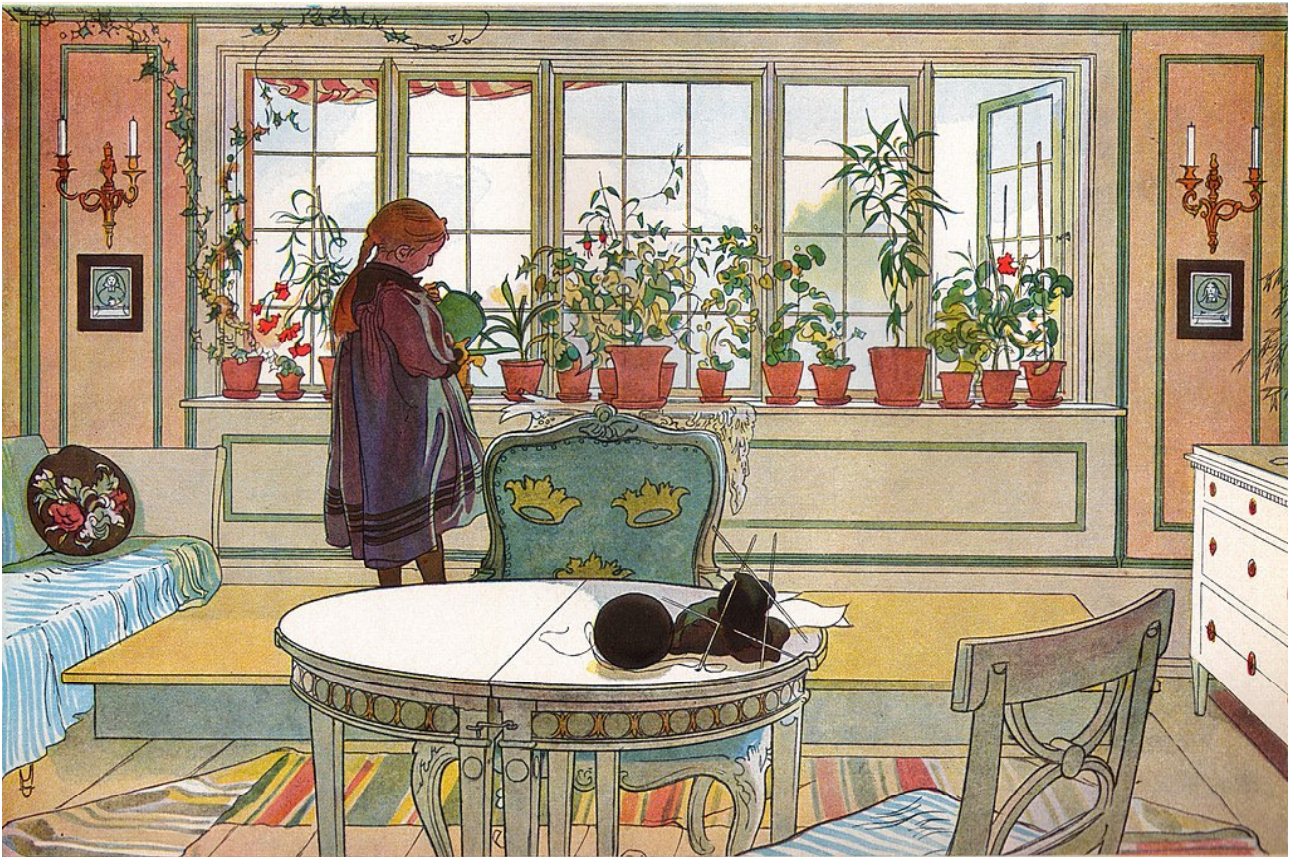
それは日本美術、とりわけ葛飾北斎や歌川広重などの浮世絵の描法です。

これは1880年代のパリなどで流行したジャポニスムの様式で、構図、モチーフ、連続した物語性などにも表われています。

今回も画集『わたしの家』より家族を題材に描いた作品と作品のテーマに合う俳句を選びました。

お楽しみ下さい。

4. 『窓辺の花』



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Blomsterfönstret_av_Carl_Larsson_1894.jpg

『窓辺の花』 | 1894年 | 水彩、32 × 43 cm | スウェーデン国立美術館

ラーション家のリビングと南側にある大きな窓。
窓辺に並べられた鉢植えの花々に水をあげるのは長女スサヌ。
カーテンを取りつけず、窓の左端から伸びるアイビーの蔓をアクセントにして、明るく開放的な空間を作り出しています。
ここでは窓辺に並べられた鉢植えに注目し「花（の）鉢」を詠んだ句を選びました。

朝顔は普段着の花鉢かろし

石川桂郎(いしかわ けいろう) (1909-1975)

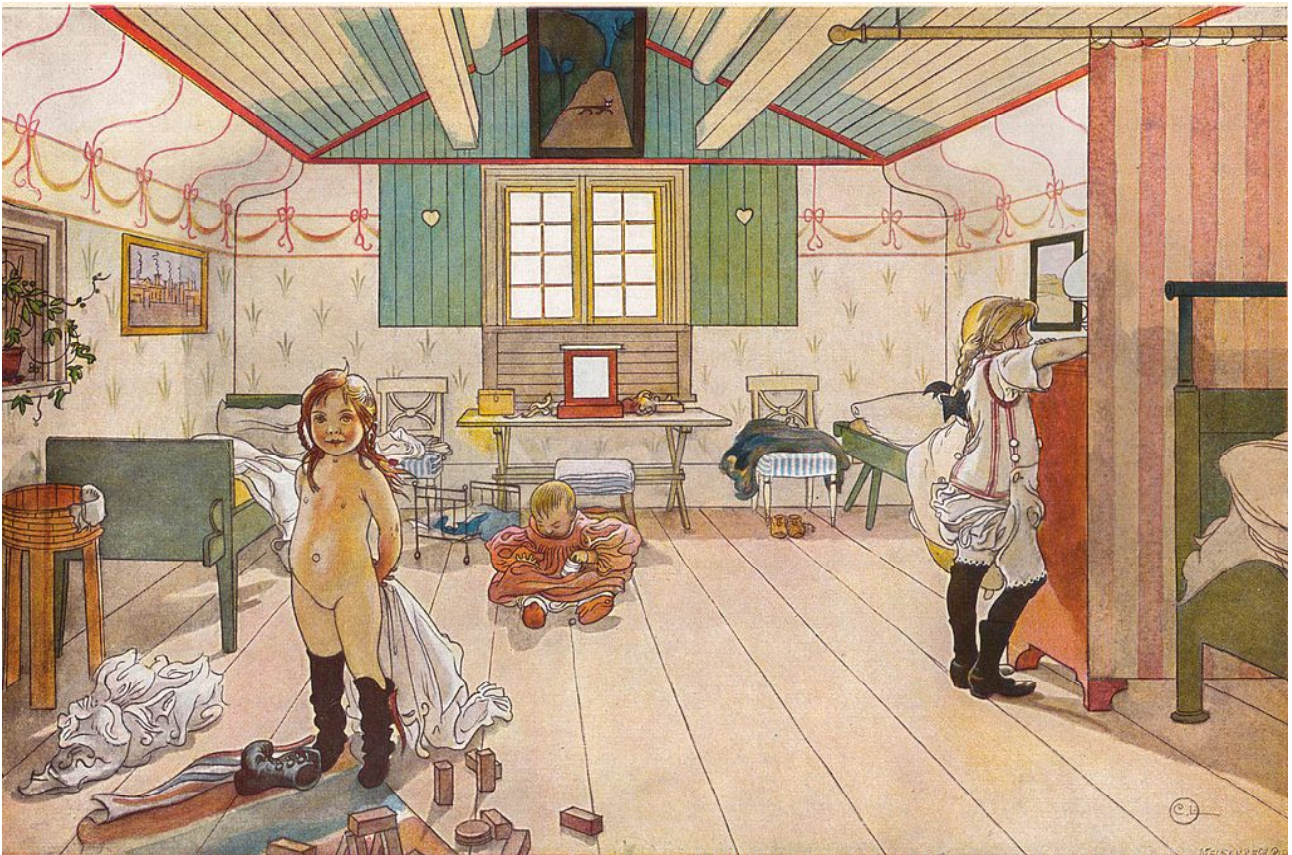
季語<朝顔>で初秋

壺堇一鉢畝傍郵便局 (壺堇=つぼすみれ、畝傍=うねび)

坪内稔典(つぼうち ねんてん) (1944-)

季語<堇>で三春

5. 『ママと小さな娘たちの部屋』



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Mammas_och_sm%C3%A5flickornas_rum_av_Carl_Larsson_1897.jpg
『ママと小さな娘たちの部屋』 | 1897年 | 水彩、32 × 43cm | スウェーデン国立美術館

1897年5月、母カーリンが重い肺病から回復して、久しぶりに家に帰って家族とともに生活するようになりました。

娘たちは我慢していた感情を表現したに違いありません。

嬉しそうな表情をして立つ裸の子が三女ブリータ。

その右で洋服を探しているのが次女リスベート、奥には前年に生まれた四女チェシュティが遊んでいます。

女の子と母親の寝室は床と壁は白く塗られ、ベッドは明るい緑色で広々としています。

ここでは裸で嬉しように立つ三女に注目して晩夏の季語「裸の子」を詠んだ句を選びました。

裸子や涙の顔をあげて這ふ

野見山朱鳥(のみやま あすか) (1917-1970)

裸の子顔一杯に笑ひをり

上野章子(うえの あきこ) (1919-1999)

6. 『ネーム・ディのお祝い』



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Namnsdag_p%C3%A5_h%C3%A4rbret_av_Carl_Larsson_1898.jpg
『ネーム・ディのお祝い』 | 1898年 | 油彩、32 × 43 cm | スウェーデン国立美術館

ネーム・ディはキリスト教において、自分が命名されたのと同じ名の聖人の祝日です。もうひとつの誕生日とも言われ、スウェーデンの人々はこの日を大切にしてお祝いをします。ラーションは絵のモデルのために古い衣装や帽子を買い集めていました。この日は子どもたちが自由に衣装を選んで着ることが許されています。少女の姿になっているのは長男ウルフ。その横で男装の長女スサンヌが詩を朗読しています。草花の冠をかぶっているのは次女リスベートと四女チェシュティ。毛皮の帽子をかぶってはしゃいでいるのは三女ブリータです。この日の主役はお手伝いさんのエンマで、イニシャルの入った花輪を手にしています。ここでは誕生日を詠んだ句を選びました。

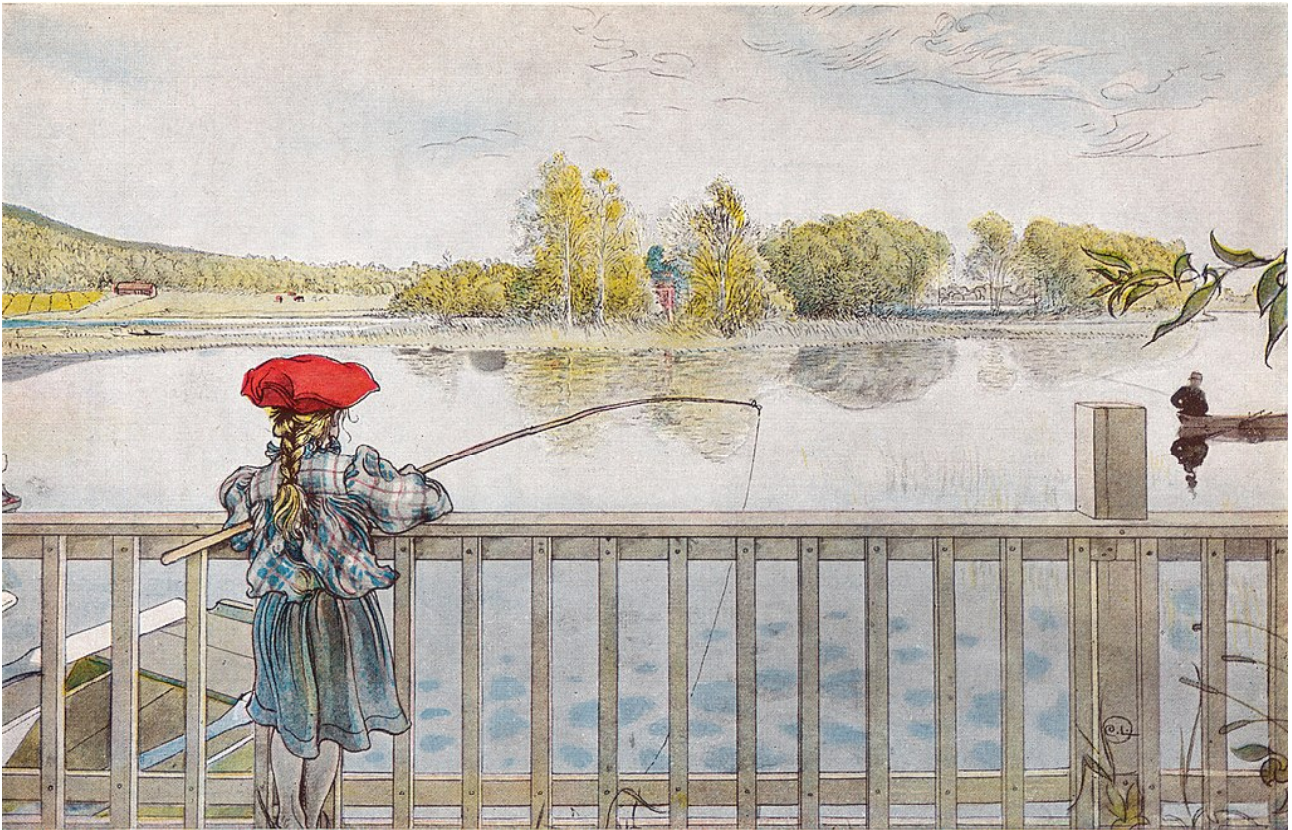
木犀の銀の十字や誕生日

角川源義(かどかわ げんよし) (1917-1975)
季語<銀木犀>で仲秋

踏み鳴らす虹の音階誕生日

仙田洋子(せんだ ようこ) (1962-)
季語<虹>で三夏

7. 『魚釣りをするリスベート』



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Lisbeth_metar_av_Carl_Larsson_1898.jpg

『魚釣りをするリスベート』 | 1898年 | 水彩、32 × 43 cm | スウェーデン国立美術館

橋の欄干から次女リスベートが釣り糸を垂らしている図ですが、不思議な空間の広がりを感じさせます。

連続する木製の欄干と後ろ向きの少女は葛飾北斎の『富嶽三十六景 五百らかん寺さゞみどう』の構図によく似ていて、ラーションが浮世絵の影響を受けていたのがよくわかります。

また、右端から覗かせる木の葉と小舟の釣り人や、はるか対岸の家畜や人も歌川広重などが用いた日本美術の手法をうかがわせます。

参考までに次項に上述の北斎の作品を掲載しておきます。

ここでは、釣りの対象となる淡水魚を詠んだ句を選びました。

女の子一人加はり鯊を釣る（鯊=はぜ）

右城暮石（うしろ ぼせき）（1899-1995）

季語＜鯊＞で三秋

水門に少年の日の柳鮠（柳鮠=やなぎはえ）

川端茅舎（かわばた ぼうしゃ）（1897-1941）

季語＜柳鮠＞で三夏。特定の魚の名ではなく、ウグイやオイカワのような 10cm たらずの柳の葉に似た淡水魚を指します。



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Sazai_hall_-_500_Rakan_temples.jpg

葛飾北斎 『富嶽三十六景 五百 (ごひゃく) らかん寺 (らかんじ) さざみどう (さざいどう)』

私も詠んでみました。

鱒紅葉せし鮒ねらふ日和かな

(鱒=ひれ、紅葉=もみじ、紅葉鮒 (別名 源五郎鮒) は明治末頃までは琵琶湖と淀川水系の特産魚でした。その名の由来は鱒 (ひれ) が晩秋に色づくからという説と紅葉の頃に美味であるとする説などがあります。)

白井芳雄

今回は「カール・ラーション、その絵画と俳句」-IIをお届けしました。

全体を通じての参考文献、出典：荒屋鋪 透

『カール・ラーション スウェーデンの暮らしと愛の情景』（東京美術）（2016 年）
ISBN978-4-8087-1068-2 C0071

荒屋鋪 透

『カール・ラーション スウェーデンの暮らしを芸術に変えた画家』（東京美術）（2018 年）
ISBN978-4-8087-1125-2 C0070

飯田龍太・稲畑汀子・金子兜太・沢木欣一監修

『カラー版 新日本大歳時記 愛蔵版』（講談社）
ISBN978-4-06-128972-7

『角川俳句大歳時記 新年』（角川学芸出版）
ISBN4-04-621035-4 C0392

『角川俳句大歳時記 春』（角川学芸出版）
ISBN4-04-621031-1 C0392

『角川俳句大歳時記 夏』（角川学芸出版）
ISBN4-04-621032-X C0392

『角川俳句大歳時記 秋』（角川学芸出版）
ISBN978-4-04-621033-3 C0392

『角川俳句大歳時記 冬』（角川学芸出版）
ISBN4-04-621034-6 C0392

本間美加子

『日本の 365 日を愛おしむ』（東邦出版）
ISBN978-4-8094-1652-1 C0076

参考サイト：フリー百科事典ウィキペディア (Wikipedia)

最後までお読みいただきありがとうございました。

(株)技術情報センター メルマガ担当 白井芳雄

本メールマガジンのご感想や本メールマガジンへのご意見・ご要望等 melmaga@tic-co.com まで、
どしどしお寄せ下さい。

株式会社 技術情報センター 〒530-0038 大阪市北区紅梅町 2-18 南森町共同ビル 3 F

TEL : 06-6358-0141 FAX : 06-6358-0134 E-mail : info@tic-co.com